


(シラバス No.6) (基盤科目)

科目名	研究方法特別演習VI 英語名: Special Seminar on Study Method VI	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	児玉 ゆう子	
【授業概要】				
<p>看護と教育の両分野を融合させた研究分野である看護教育分野において、自律した研究者としての研究遂行力を身につけることを目的とする。その際に、実践を踏まえて研究を行う看護専門職にふさわしい、学術性も担保した看護教育学研究に資する知識と技法を学修する。本科目では看護分野に留まらず、医療全般の専門職種に関する教育についても扱う。具体的には本科目の履修により、それぞれの研究方法がもつ強み、弱みを理解し、看護や他の医療専門職の教育実践を検証するにふさわしい研究方法が選択・遂行できるスキルを獲得する。さらに、研究のプロセスで欠かせない研究者、教育者としての倫理観を涵養し、さらには倫理観に裏付けられた研究を実践するために必要な研究手法を獲得できることを目指す。</p>				
【キーワード】				
看護教育学、質的研究、量的研究、ミックスメソッド、研究倫理				
【授業の到達目標】				
<p>自律して看護教育に関する実践的な研究が遂行できる能力の修得にむけて、以下の到達目標を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護教育の発展に寄与する、実践的な研究の意義を再確認する。 ② 世界の看護学教育の動向を把握し、日本の看護教育の実践に関する課題を概観することができる。 ③ 自らの実践現場における看護教育の課題を述べることができる。 ④ 自らの研究テーマに沿った研究方法を選択することができる。 ⑤ 自らの研究テーマに適した研究設計を考えることができる。 				
【スクーリング実施の有無】				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本演習のねらい・進め方 看護や他の医療専門職と教育			
2	看護や他の医療専門職が研究を行う際の倫理			
3	看護教育研究の基礎としての量的研究と質的研究の概観			
4	研究方法 (1) 看護教育研究における質的研究とは			
5	研究方法 (2) 質的研究を用いた看護や他の医療専門職の教育に関する研究の実際			
6	研究方法 (3) 看護教育研究における量的研究とは			
7	研究方法 (4) 量的研究を用いた看護や他の医療専門職の教育に関する研究の実際			
8	研究方法 (5) 看護教育現場をより深く探究するためのミックスメソッドとは			
9	研究方法 (6) ミックスメソッドを用いた看護や他の医療専門職の教育に関する研究の実際			
10	リサーチクエストと研究の意義			
11	研究テーマにあった研究方法の選択			
12	研究倫理 (1) 研究のオリジナリティーと研究者の倫理			
13	研究倫理 (2) 対象者への配慮と研究倫理審査			
14	研究スケジュールと研究遂行の具体的なプロセス			
15	まとめと展望			
試験				
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】				
指定したテキストを事前に読み、理解を深めておく。				

【スクーリングでの学修内容】

スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何をめざすかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。

学修初期のスクーリングに関しては、スクーリング前にはテキストを精読し、理解を深めておく。スクーリングでは、研究者としての倫理的素養を学修するとともに、自身の研究課題にふさわしい研究方法についての理解を深める。スクーリング後には、スクーリングでの学修をふまえて、自身の研究に即した研究方法を具現化する。学修の後期では、前期の学修をふまえて、研究方法を選択し、倫理的な配慮や遂行の実際を踏まえながら研究を設計し、スクーリングでその内容のプレゼンテーションを実施する。スクーリング後には博士研究指導Ⅰの中で研究計画を完成させ、研究フィールドとの調整や研究倫理審査の受審など研究開始にむけた具体的なアクションを開始する。

スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。

【評価方法】

合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。

【テキスト】

D. F. ポーリット , C. T. ベック (近藤潤子 監訳) 『看護研究 第2版—原理と方法』医学書院, 2010年

Suzan K. Grove , Nancy Burns , Jennifer R. Gray (黒田裕子、中木高夫、逸見功 監訳) 『バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 —評価・統合・エビデンスの生成』エルゼビア・ジャパン, 2015年

【参考図書】

Jennifer R. Gray, Susan K. Grove, Suzanne Sutherland.(2016). Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 8e, Saunders

【教員メッセージ】

実践研究は研究フィールドの協力がなくては、成立しません。現場との調整能力、研究メンバーとの協力体制構築にふさわしい研究者としての態度等も身につけていただくことを期待します。

【備考】

特記事項なし